

見るだけではない、「触れる」・「体験する」郷土に根差した博物館 士別市立博物館・公会堂展示館

士別市立博物館 学芸員 中村 圭佑



士別市立博物館

HPはこちら



士別市立博物館は、旭川市から北に約60kmの場所に位置する士別市にあり、士別市立博物館と公会堂展示館の2つの展示施設からなる総合博物館です。

士別市立博物館は、昭和56（1981）年に士別80年を記念して建てられ、「士別の歴史」「天塩川流域の自然と文化」「北方圏」をテーマに開館しました。また、士別市立博物館に隣接するかたちで、かつて議場として使用された士別市旧公会堂を復元し、美術館的機能を持った公会堂展示館として平成元（1989）年に開館しました。

平成23（2011）年には常設展示室のリニューアルを行い、「郷土の歴史と文化」「天塩川流域の自然」をテーマに展示や講座などといった教育普及活動に力をいれて取り組んでいます。

歴史の常設展示では、士別市内から出土した石器や土器、最北で最後の士別屯田に関する資料、農機具や商店の看板、昭和の生活道具まで幅広く展示を行い、士別のこれまでの歩みを紹介しています。中でも、かつて士別の町中を走っていた馬車鉄道の展示と、屋外



かつて士別市内を走っていた馬車鉄道

にある屯田兵屋は来館者の目を引くものとなっていて、最初期の士別の様子をうかがうことができます。

また、公会堂展示館には士別にゆかりのある方の作品や資料を展示しており、パリなどで版画家としても活躍した小池暢子氏の版画作品や、女優で冒険家でもあった和泉雅子氏の北極点遠征資料やイヌイットの民族資料なども展示しています。このほかにも自然史展示では岩石や化石などの士別の地質に関わる資料や、

動植物のはく製や標本なども展示しています。

これらの博物館の展示資料は触れられないことが一般的ですが、士別市立博物館では触れることができるハンズオン展示が多くあります。資料に直接触れることで、質感や重さ、使い方など、見るだけでは難しい展示資料の情報を感じてもらい、より深く資料について理解してもらうための取り組みとして行っています。

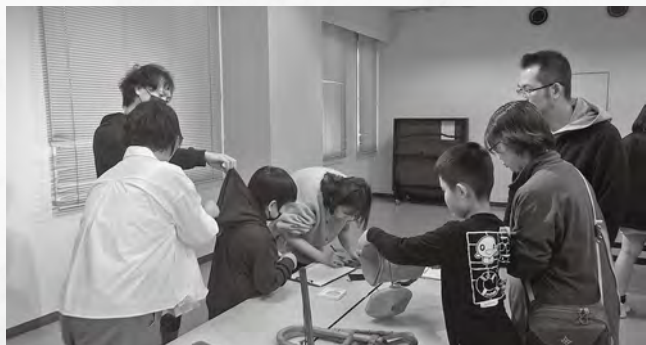


触れることができる展示資料（戦前の教科書）

また、士別市立博物館は主催講座・依頼講座を合わせて、年間50回程度開催していて、この講座の多さは士別市立博物館の特色の1つとなっています。

特に主催講座ではまが玉づくりや古文書教室などの歴史に関する講座や、自然観察やウチダザリガニ捕獲体験などの自然に関する講座など、歴史から自然に関わる幅広いジャンルの講座を開催しています。

最近では昔の生活に使われた道具、いわゆる民具を活用した講座は参加者から好評を得ています。現在で



民具を使った講座の様子（これ何？博物館のコレクション）

は使うことがなくなった古い民具や、用途が分からなくなった民具を見たり・触れたりしながら、参加者や博物館学芸員も交えて自由に考えるといった内容になっています。

講座を通して普段では触れることのない資料に触れる機会になるだけでなく、ご年配の方から子どもまで、参加者同士の交流の場にもなっています。

また、特別展示活動では士別の歴史や自然をテーマとして、学芸員がそれぞれ担当して特別展・企画展を開催しています。

最近では、歴史展示では「戦後80年展」「昔の遊び展」「古文書展」、自然史展示では「はじめての野鳥観察」「博物館周辺の植物展」「雪氷展」などを開催しました。このほかに、日本版画協会が主催する巡回展を、三年に一度、士別でも開催しており、普段では目にすることの少ない、様々な技法で制作された版画を見る貴重な機会となっています。こうした展示を通じて、士別の歴史や自然、芸術など魅力を発信しています。



昨年度開催した「戦後80年展」の様子

ここでは紹介しきれませんが、ほかにも博物館ボランティアと協力した取り組みや、士別市立博物館で委嘱している特別学芸員という外部の専門的知識を持つ方々と調査研究活動なども行い、博物館講座や展示の充実を図っています。

見るだけでなく、「触れる・体験する」というアクションを通じて多くの方に、士別という町に関心を持ってもらえるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。